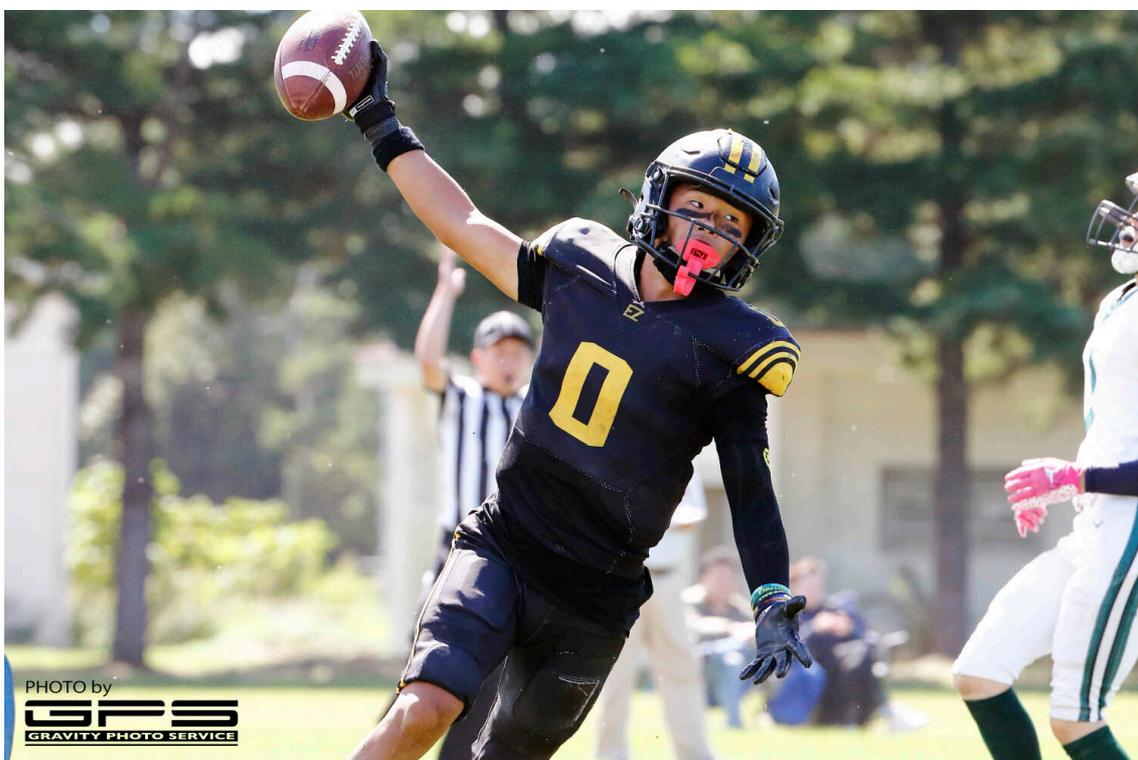


■釧路公立大―帯広畜産大は引き分け、室蘭工業大が競り勝つ。道学生選手権第4節

第51回北海道学生アメリカンフットボール選手権第4節は9月14日、帯広市稲田町の帯広畜産大グラウンドで1部の2試合を行った。室蘭工業大が東京農業大に27-20で競り勝ち、釧路公立大―帯広畜産大は0-0で引き分けた。室蘭工業大は1勝1敗、東京農業大は3敗。釧路公立大は1勝1分け、帯広畜産大は1分け2敗となった。第5節は9月23日、札幌市円山競技場で2部の北星学園大―札幌学院大（午前10時開始）、1部の釧路公立大―室蘭工業大（午後1時開始）を行う。



室蘭工業大―東京農業大は、室蘭工業大が第1Q9分にQB原田颯太（3年）の5ヤードランで先制すると、第2Q7分に東京農業大もQB関叶翔（3年）の1ヤードランで追いつき、前半を7-7で折り返した。後半もTDの応酬となった。第3Q2分に室蘭工業大がRB友田悠斗（4年）の13ヤードランで13-7とすると、同5分に東京農業大もQB関からWR木村拓海（4年）へ28ヤードのTDパスで14-13と逆転。同7分には室蘭工業大のRB友田がこの試合2本目のTDとなる8ヤードランで19-14と再逆転した。

第4Qも点の取り合いが続いた。1分に東京農業大がWR木村のパントフェイクからの34ヤードランで20-19と逆転したが、同7分に室蘭工業大がQB原田からWR西京介（2年）への83ヤードTDパスで25-20と再び逆転。トライのパスも決まって27-20として逃げ切った。

室蘭工業大の半沢伸太郎監督は「練習した通りに友田のランを出せた。西のTDキャッチはラッキーもあったが、後半のここぞという時のパスが生きた」と作戦勝ちを強調。「残り2試合も連勝するよう、チームの意思統一ができてい」と力を込めた。2TDランのRB友田は「今季初TD。エースRBとしてやっと取れた。逆転勝ちがチームとして大きな成長になる」と言葉を弾ませた。



前年準優勝の釧路公立大と同6位の帯広畜産大の一戦は、両チームの粘り強い守備で無得点の引き分けとなった。第1Q10分、釧路公立大が敵陣3ヤードまで攻め込んだがQB石川諒（2年）のパスを帯広畜産大のLB安澤十野（3年）がインターセプト。第2Q9分には帯広畜産大のRB/K宗像海斗（2年）が30ヤードFGを狙ったが失敗した。

後半は帯広畜産大がスペシャルプレーで仕掛けた。第3Q8分すぎにワイルドキャット陣形からRB安澤、QB桂田陽向（4年）とつないでパス。エンド

ゾーンに走り込んだWR後藤永（2年）が好捕したが、惜しくも反則でTDは取り消しに。同10分にはQB/K桂田が37ヤードのFGを狙ったが失敗。釧路公立大も第4Q残り4秒で、60ヤードFGを狙ったが外し、両チーム無得点のまま引き分けた。



帯広畜産大の鏡順之助監督は「3試合目で守備が固まった。体力強化作戦の成果もある。あと2試合、東京農業大と室蘭工業大を圧倒して勝ちたい」と意気込み、卯野優翔主将（4年）も「あと2試合、連勝を目指す」と宣言。釧路公立大の伊藤祐介HCは「負けなかったことをポジティブに考えたい。点を取られないチームを目指していて、それは体現できている。今日は畜大に粘られた」と試合を振り返り、主将のQB中西は「ゴール前まで攻め込んでも攻め切れなかった。あと3試合、この悔しさをバネにしたい」と決意していた。

（広報委員 塚田博）